

2022 年度人文社会科学部インターシップ実施報告

2000 年度、当時の人文学科によって始められたインターシップは、2017 年度以降、県庁や市役所などへのインターシップを管轄する「公的機関」と、一般企業へのインターシップを管轄する「民間企業」の 2 グループに分けられ、かつガイダンス等は 2 グループ共同で行ってきた。

しかし 2020 年度・2021 年度において、世界は新型コロナウイルスの猛威の前に封鎖状態に陥り、本インターシップもあえなく休講に追い込まれた。そして 2022 年度に至って、参加人数を大幅に減らしながらも、参加学生の努力と、派遣先の熱意、そして担当教職員、わたくし井澤、高井先生、斎藤先生、小原先生、学務 G の松岡さん、キャリアセンターの方々のサポートにより、ようやく実施することができたのである。本インターシップ復活に尽力していただいた皆様には、特に記して謝意を表します。

その 3 年ぶりに復活した今年度のインターシップの諸活動は以下の通りである。

- (1) キャリアセンター主催によるインターシップ・スタートアップガイダンス (2022 年 4 月 27 日) をオンラインで開催。
- (2) インターシップ派遣前ガイダンス (8 月 3 日および 5 日) をオンラインで開催。
- (3) インターシップの実施 (8 月・9 月)
今年度のインターシップ受講者は次の 4 名であった。
飯田 恒也くん (鹿嶋市役所)
中島 里美花さん (水戸市役所)
渡邊 章業くん (那珂市役所)
鈴木 千愛さん (日立市役所)
- (4) 11 月 28 日、対面・オンラインのフレックス形式によりインターシップ報告会を開催した。参加学生は、派遣先と仕事内容の紹介、感想および反省を

詳細に発表し、それに対して担当教員などから質問をするという形式で行われたが、各人のインターンシップ経験を十分理解できる大変有意義な報告会となった。発表会後に報告書の最終稿が無事に提出された。

続いて、参加学生が心血を注いで執筆した「インターンシップ報告書」を紹介させていただきます。そこには未だコロナ禍の傷が癒えない中、インターンシップ活動に懸命に励んでくれた4名の「サムライ」の足跡が記されていますので、今後インターンシップの受講を希望する学生諸君は、先輩たちが掲げた「希望」の灯りを絶やさぬよう奮起していただくよう強く願います。

文責 井澤 耕一

市民の課題をチームワークで解決

鹿嶋市役所 都市整備部 施設管理課

飯田恒也（現代社会学科・3年）

1. 参加の動機

「市役所が市民の暮らしを支えている」ということはよく耳にするとおもいます。しかし、暮らしをどのように支えているのかは、幾分知る機会も少ないとおもいます。それを知るため、そして元来興味のある業種であるインフラ関係の仕事内容を実際に確かめるために、今回のインターンシップへの参加を決めました。また、それを知ることで、民間企業との違いや、自分の肌に合うのか確かめたいとおもいました。

2. 派遣先の概要と業務内容

私の実習先である施設管理課は、3つのグループに分かれており、そのうち2つの都市施設グループと道路維持グループでは、主に市の管理する道路、公園、橋梁の維持や整備を担当しています。また、それらに付随するような水路やカーブミラー、公園の遊具などの様々な施設の保守・整備を行っています。管理調整グループでは、市道の認定や、私有地と用地の境界を確認する業務、それらの許認可、各グループの調整等を行っています。また、それぞれのグループに横断して、要望の受付や工事の契約事務なども挙げられます。

内容としては、特に現場に出て確認作業を体験させていただく機会が多くありました。要望として挙げられていた水路の滞留や劣化、道路の草刈りや老朽化をはじめ、危険箇所や公園施設の点検、道路建設課での道路工事の視察など、様々な現場を確認し対応を判断する業務に同行しました。そのうち、道路管理者である市として、現場で補修できるような市道の損傷や穴を応急的に補修する業務や、監視カメラの設置場所の決定に立ち合わせていただくこともありました。また、用地境界確認の立ち会いにも同行し、実際の測定の現場を見ることが、法的根拠のある資料と現実とのズレを確認しました。窓口での要望の受付や書類整理、資料探し等の独立した業務を、一連の業務として体験させていただきました。

3. インターンシップを通して修得したこと

今回の実習では、主に地方公務員の施設を管理する業務内容に関することと、職場においてチームで目的をこなすことの2つを学びました。前者では、業務内容でも述べたような体験を通して、申請や要望として提出されたものや許認可等がどのようにして処理されているのかが実践的に理解できたことです。一市民にとっては、要望を提出したり申請を行ったりした後、解決や許可という結果しか見えません。事務作業においても現場作業においても、その過程を体験すること

で、市民の方々の問題とその解決に関するアルゴリズムとイレギュラーへの対応を理解できました。特に施設管理課は、その管理する施設に関する様々なお願いやリクエスト、時には苦情が要望として多く寄せられる課でした。そのため、それらを解決するための業務はそれぞれ異なり、有効な解決策の判断を求められることを学びました。

後者では、上述の判断やそれぞれの解決を一人で行うのではなく、同僚の意見を取り入れたり、話し合ったりしながら解決するということです。実習中に「市役所はまるで総合商社」とお聞きしたことや、実習後の座談会で「公務員は民間と違ってノルマが無い」というお話が印象的でした。全く異なる分野での異動が多い市役所で、個人のでき得る判断はなかなか難しいと考える。そのため、問題を解決する際に、業務を競い合うライバルというよりも、仲間である同僚とチームで課題解決に向かう姿勢が必要であることを学びました。

このように、今回のインターンシップを通して、市民の暮らしの中の課題を解決する具体的な方法や、それにチームとしてアプローチしていく事から詳細な業務内容を幅広く学び、同時に従来 of 公務員への印象の変化も得られるような良い機会となりました。

4. 後輩へのアドバイス

今回のインターンシップはたかが1週間と言われてしまうかもしれませんが、実習生として指導される立場でありながら、チームの一員として受け入れていただきました。そのような充実したインターンシップを行えたのも市役所ならではかもしれません。競争ではなくチームで課題解決に向かう働き方に惹かれた方は、一度考えてみてはいかがでしょうか。

広報の可能性を学び自己成長へ

水戸市役所 市長公室みとの魅力発信課

中島 里美花(現代社会学科・3年)

1. 参加の動機

大学入学時から、将来は地域に関わり人の役に立つ仕事がしたいと考え、地方公務員を志望しています。なかでも水戸市の職員として、市民の皆さんのより良い暮らしのために貢献したいです。しかし、このように思いつつも今まで市役所を頻繁に訪れた機会はほぼなく、その具体的な仕事内容や働き方などを詳細に把握できていませんでした。そこでインターンシップという形で実際に業務を体験し、直接職員と話すことで職業意識の向上を図るべく申し込みに至りました。

また、数ある部署の中からみとの魅力発信課を希望した理由は、私が長年ずっと広報という分野に強く興味関心を持っているからです。かつて写真部に所属し培った技術や、大学のチアサークルで広報担当として情報発信に注力してきた経験なども最大限活かすことができると思いました。さらに本部署では広報誌の発行にも携わることができると聞き、以前筑西市の地域活性化活動の一環で、オリジナル情報誌を作成した経験の実践にもなると思い、志望しました。

2. 派遣先の概要と業務内容

私の派遣先である「みとの魅力発信課」は、広報と広聴の機能を司る部署です。この部署は、広報係とイメージアップ係、市民相談室の三つのチームに分かれ日々仕事をしています。今回のインターンシップでは、主に広報係とイメージアップ系の業務を体験しました。体験した具体的な業務内容は、広報係では広報紙発行のための取材や撮影同行をはじめ、実際に校正会議に参加したり次号の作成に携わらせて頂いたりしました。イメージアップ係では水戸市で運用しているTwitterとFacebookで実際に投稿を作成したり、フィルムコミッション業務の一環で撮影現場に同行し見学させて頂いたりもしました。また、個人業務として「広報誌100周年を記念した年表の作成」という仕事を一任させて頂き、Adobeなどの部署で実際に使用されている専門ツールを使いながら、職員と同様の実務を深く経験させて頂きました。

3. インターンシップを通して修得したこと

インターンシップ参加以前の私は、自分に自信がなくあがり症で、人前に立つことも相手に自分の意見を言うことも苦

手な学生でした。しかし 11 日間に及ぶインターンシップを通して、部署内外のたくさんの職員の方々と交流しながら多岐にわたる業務を体験させて頂くことで、自分と向き合い自己成長に繋げることができました。特に修得できたと強く実感しているのは、「積極性」と「コミュニケーション力」です。職員の方々は、仕事をする上でコミュニケーションをととても大切にしており、普段から挨拶や情報共有を積極的に行うことで働きやすい環境づくりを徹底されていました。また、指示を待つのではなく自分から質問したり、意見を述べたりすることで業務をより円滑に進めようと心がけて仕事をされていました。このような雰囲気の中で職員の方々の働き方を参考に、積極性とコミュニケーション力を意識しながら何度も繰り返し挑戦しました。それによって徐々に自信が形成され、大人の職員の方々とも臆せず話すことができるようになり自己主張もできるようになりました。今回修得した力を、今後の自分の行動や学生生活にも反映させていきたいです。

4. 後輩へのアドバイス

私からのアドバイスとして、伝えたいことが2点あります。1点目は、「悩む前に動こう！とりあえずでも挑戦しよう！」という前向きな気持ちを常に持つことです。何か新しいことに挑戦するときは、誰でも不安や悩みを感じます。しかし思い切って動いてみると、案外楽しさを感じたり自分の想像以上に得るものがあったりとプラスのことしかありません。私は今回のインターンシップで、業務内容について知ることができただけでなく自己成長に繋がる機会にもなりました。ぜひ皆さんも自分の弱さに打ち勝ち、挑戦をしてみてください。2点目は、インターンシップ期間中に目標を立て振り返る習慣をつけることです。私はその日の目標と実習内容、自分の改善点やよかった点などを毎日ノートに書き出して、反省を行いました。それによって自分の改善点が明確化され、昨日の自分よりも向上しようという想いのもと、常にモチベーション高くインターンシップ期間を過ごすことができました。このように自分の心がけ一つでより一層充実し、有意義なインターンシップにすることができるので、皆さんも貴重な機会を逃さず果敢にチャレンジしてみてください。

インターンシップを通して得た市役所の仕事への新たな印象

那珂市役所 企画部 政策企画課

渡邊 章業 (法律経済学科・2年)

1. 参加の動機

私は、大学卒業後に就きたい職業の一つとして市役所や県庁の職員を考えています。理由としては、市民や県内の企業と密接に関わりながら地域に貢献したいと思うからです。今まで、市役所や県庁での仕事についての知識や情報を得るために、その仕事内容や職場の雰囲気などについてインターネットで調べていました。しかし、そこから得られる情報はあくまで一般的なものであり、実感が伴いませんでした。そのような中、茨城大学のキャリアセンターを通して官公庁や民間企業へのインターンシップがあることを知りました。この機会を利用することで、インターネットだけでは得ることができない、市役所や県庁で働くことについての知識や情報を獲得できると考えました。

また、数ある官公庁のインターンシップの中で那珂市役所を希望した理由としては、那珂市が私の地元である日立市に近く、以前から関心があったということが挙げられます。市役所の仕事について学びながら那珂市を改めて見つめ直して更なる発見を得たいと思い、インターンシップへの参加を希望しました。

2. 派遣先の概要と業務内容

私が派遣された那珂市役所企画部政策企画課は、政策企画グループと地方創生グループに分かれています。政策企画グループでは、市の総合計画や重要施策の企画、総合開発などを行っており、地方創生グループでは地方創生の総合調整や移住・定住の促進、SDGsの推進などを行っています。実習にて私は、現在那珂市で行われている子育て世帯等への補助金交付の手続きを見学したり、SDGsの認知を広めるためのホームページ作成をしたり、「お試し居住」に使われる施設の管理を体験したりしました。また市内見学では、市のコワーキングスペースである「いい那珂オフィス」を市民の方が実際に使われているところを視察したり、那珂市が観光地として推進する「静峰ふるさと公園」に赴いたりしました。さらに庁舎内見学では市民が最も多く訪れる庁舎1階をはじめ、議場や議長応接室なども案内していただき、特に議場では実際に議長席に座らせていただきました。

3. インターンシップを通して修得したこと

今回のインターンシップでは市役所を新たな視点から見ることで、市役所で働くことに対して新たな印象を得ることができました。

私が市役所を訪れる時大抵の場合は、窓口で職員の方に対応していただき用が済めば市役所をすぐ去ってしまいます。よって以前までの私の市役所に対する視点は、窓口から見た視点だけでした。しかし実習中は内部からの視点を得られ、職員の方同士とのコミュニケーションを間近で感じ、市民対応の裏側を見ることができました。職員の方が互いに業務の円滑化を図っていること、職場の雰囲気を和やかにしていること、市民からの意見を真摯に受け止めていることを肌で感じ、市役所の仕事に対する印象が大きく変化しました。

また実際に業務の一端を体験することは、インターネットの情報によって構成された市役所で働くことのイメージを大きく変える事に繋がりました。インターネットの情報だけでは市役所の仕事がどのようなものであるかを上手く捉えることができませんでしたが、実際に体験することでその業務が秘める面白さ、市民のために貢献する業務であるという本質に気づくことができ、市役所で働くことへの関心が高まりました。

4. 後輩へのアドバイス

官公庁のインターンシップに限らず気になる仕事のインターンシップがあれば、参加を考えてみることをお勧めします。実際に参加することで見えてくる実態、雰囲気、印象は自分の将来の選択に大きな影響を与えます。参加したことで気になる仕事とミスマッチを感じてしまったとしても、それは将来の選択にとってプラスのこととなり得るでしょう。よって私が伝えたい思いとしては、「気になる仕事があれば調べるだけではなく、インターンシップなどの機会を通して実際に参加してみよう。」ということです。

デジタル化で市民の暮らしを豊かに

日立市役所 市長公室 デジタル推進課

鈴木千愛（人間文化学科・2年）

1. 参加の動機

私は以前から公務員を将来の選択肢の一つに考えていました。しかし、市役所が担っている業務に関する詳しい知識が無いと感じていたことに加え、民間企業で働くこととの違いは具体的にどのような部分にあるのかという点が明確ではなく、疑問を持っていました。実際の業務を体験することによって職員の方々の働く様子や雰囲気を間近で感じ、ネットや本では得ることの出来ない情報を多く得たいという思いから、今回のインターンシップへの参加を決めました。さらに、公務員という職業が自分の希望に合致するものであるのかを再確認し、将来についてより深く考える機会にしたいと考えました。

2. 派遣先の概要と業務内容

私が配属されたデジタル推進課では、市内のあらゆるデジタル化を促進することを目的とした業務を行っています。具体的には、マイナンバーカードの普及促進や公共施設へのWi-Fi設置等による市内のデジタル環境整備、行政手続きのオンライン化による市民サービスの向上、デジタル技術活用による市役所内の業務効率化などがあります。

実習中には様々な業務を体験させていただきました。初めに、市民の安全を守るという目的で、市内の8か所に設置されている携帯電話の鉄塔の点検を行いました。次に、マイナポイント対応窓口業務の補助を体験し、実際に市民の方からの質問への対応や、ポイント受け取りの手続き画面の操作などを行いました。また、市内のデジタル化をPRする動画の撮影にも同行し、かみね動物園や日立駅などにおいて、日立市が提供するアプリやWi-Fiの使用をアピールポイントとして撮影する様子を見学しました。その他、市のホームページ更新に関する打ち合わせへの参加や、課で管理を行っているWEB会議用の機材の整理、携帯会社のサービスを利用した人流調査によるWi-Fi設置箇所の検討など、多様な業務を体験しました。

3. インターンシップを通して修得したこと

初めに、デジタル推進課での実習を通して学んだことは、デジタル化で市民の暮らしをより豊かにするという目的を果たす上で、その影響により大きく変化する市民の暮らしを支えるという役割が同時にあるということです。特に高齢者などはその影響を大きく受けるため、誰一人見逃すことのないような広い視点を持つことが重要であると感じました。

次に、インターンシップ全体を通して第一に実感したのは、市役所が担う業務の多様さです。事務的な作業に限らず、市の良さの創出や発信も活発に行われている現状を知り、市内外にまちの魅力を伝えることも公務員としての重要な役割の一つであることを学びました。また、度々職員の方々が「課が変わると転職した気分」とおっしゃっていたことから、様々な仕事を幅広く経験して自身の成長に結びつけることができる点が市役所で働く魅力の一つであると同時に、常に新しい事柄について学ぶ姿勢でいることが求められる職業であると感じました。さらに、職員の方々は多忙な業務の中でも常に市民に対して丁寧な対応であったことが印象的でした。市民を第一に考え、一人一人に真摯に向き合うことが市民の暮らしの豊かさを支えることに結びつくのだということに気付かされました。

実際に市役所の中に身を置かないと知り得ない、細かな業務内容や雰囲気などを様々な学ぶことができた今回のインターンシップは、自分にとって非常に価値のある経験でした。公務員として働きたいという思いが自分自身の中で高まった実感もあり、将来を具体的に考える良い機会になったと思います。

4. 後輩へのアドバイス

インターンシップを通して現場で得られる情報は非常に価値があるものです。そこで得た学びは、自分自身の将来についてより広い視野を持って考えることに役立つと思います。また、職員の皆様の話からは、公務員の仕事内容に関する情報だけでなく、大学生活の中で自分は何を経験するべきかのヒントも得ることができました。不安な気持ちもありますが、少しでも興味があるならば、一步踏み出して参加してみることをお勧めします。
